

# コロナ禍における学会運営

総務担当常任理事 五十嵐圭日子(きよひこ)

昨年6月の総会から総務担当常任理事を務めております。通常ですと、本稿をとりまとめている8~9月は、支部会や研究会等の報告があがってくる時期なのですが、今年は2019年新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、鳥取大会だけでなくほぼ全ての企画が中止となり、ウッディエンスに載せられる記事もないという辛い状況に置かれています。そのような中、広報委員長の原田理事(森林総合研究所)からお声かけいただき、コロナ禍での学会運営に関して紹介する機会を得ました。

木材学会は、現在急速にデジタル化(流行りの言葉で言うとデジタルトランスフォーメーション(DX)とも言うべきでしょうか)に舵を切っています。しかしながら、これは当初新型コロナウイルス対策ではじめたものではありませんでした。研究領域に近い読者の方は、私が自身の研究で渋滞学の西成活裕先生(東大)と共同研究をしていることをご存じかも知れないですが、今年の7月から始まるはずだった東京オリンピックで、西成先生は都内での人や車の混み具合を予想する仕事をしておりました。期間中は都内の昼間人口が倍になり、通勤や通学などは大変なことになると予想し、都内にオフィスを置く企業にも出社をしないように協力を呼びかけているということでした。木材学会の事務局は、東大農学部目の前にございますので当然この影響は甚大で、事務局の機能をリモートで動かせるようにしておかないと2020年の夏は大変なことになると考え、働き方改革も兼ねて昨年の秋頃から事務局のDXを進めているところでした。

そのような最中に、新型コロナウイルスが蔓延しはじめました。2月末には政府から緊急事態宣言が出され、集会だけでなく移動すら(特に都内では厳しく)制限され、2月から3月にかけてはまったく学会に関連する業務ができなくなりました。川上実行委員長からの報告にもございますように鳥取大会に関しても、船田会長、近藤・土川両副会長とは大会中止を発表するまでの数日間何度も電話で連絡を取り合い、理事会には緊急メールで鳥取大会の中止を諮り、最終的に要旨集の印刷をもって発表は成立したものと、大会自体は全面中止の判断をしました。2011年3月の東日本大震災後でも大会が実施されたことを考えると、いかに苦渋の決断だったか、会員の皆様にお分かり頂けると思います。大会は、研究発表だけでなく、支部や研究会活動等一つところに木材関連研究者が集まって様々な意見交換をするための場です。しかしながら、大会中止の決断によってその機会を奪われ、さらに半年以上経った今でも対面での情報交換ができていない状況は変わっていません。これは木材学会の創立以来初の出来事です。結果的に東京農工大学で来年3月に開催予定の東京大会も、オンライン開催に舵を切らざるを得なくなりました。東京大会に関しては、今

後ホームページで最新情報を配信していきますので、会員の皆様におかれましては頻繁なチェックをよろしくお願いいたします。

一方で、オリンピック開催中でも事務局の機能をリモートで動かせるように準備をしていたことは、今回のコロナ禍で功を奏しました。理事会や常任理事会の資料等をクラウドでシェアしながら作業を行うことで、事務員の事務局への出勤を大幅に減らすことができました。総会をオンライン開催するためにまず理事会をオンライン開催し、そこでの審議と承認を経て、代議員による電磁的な委任および議決権行使、さらに実際に総会をオンライン開催するところまでなんとかかたどり着くこともできました。ここまでのプロセスが、一ヶ月未満の遅れでできたのも、東京オリンピックに向けてリモートワークの準備ができていたことが大きかったと思います。しかも、7月にオンライン開催した総会には、委任状を合わせて代議員100人中90人が参加、実際の参加者も64名と、これまでにない出席率でした。このような会議のオンライン開催が、会場からの距離が遠いために参加ができなかった代議員にとっては、総会参加のハードルを下げることにつながることが分かりました。これまでは会員が参加しやすいところとして東京を会場に選んできた訳ですが、オンライン会場を併設することで、物理的な移動やそれにかかる時間、さらには経費まで様々な障壁を取り除くことができた訳です。監事の鈴木滋彦先生(静岡大学)からも、このようなオンライン会議の導入は、新型コロナウイルスに対しての受動的な措置としてではなく、各地・各国に在住の会員が学会に積極的に参加ができる武器を手にしたと捉えるべきであろうというアドバイスも頂きました。執行部としまして、アフターコロナにおける新しい学会活動とはどのような形なのか、前会長の福島和彦先生が委員長を務められている将来構想委員会とともに議論しているところです。ピンチをチャンスと捉えるという月並みな表現ではございますが、オンライン会議による「物理的な距離が精神的な距離にならない学会運営」がどういうものか、真剣に考えながら学会運営を行っていく所存です。

新型コロナウイルスが収まる気配もないまま、すでに秋を迎えようとしております。木材学会では、事務局主導の会議用Zoomアカウントを5月から利用しておりますが、会員の皆様が学会関連の会議で利用できるよう別アカウントに関しても、近日中に取得する予定です。予約制になることと思われませんが、支部および研究会活動にお使いいただけたらと考えております。11月になると東京大会の参加申し込みが始まり、プログラム編成、大会開催というスケジュールで一気に年度末へ向かっていきます。次の東京大会はオンライン開催になるので、当然のことながら対面の良さが損なわれるケースが多々生じられると思われまます。参加される会員の皆様におかれましては、「これまで年度末の旅費を確保しにくかったのが、今回は会場までの距離を気にせず参加できる」「会場への移動や各会場間の移動もなく発表を聞くことができる」など、新しく「できる」ようになることにご注目いただき、オンライン開催の長所を利用した活動につなげる機会として頂けたらと考えております。

引き続き学会運営へのご協力をお願いするとともに、会員の皆様におかれましても新型コロナウイルスには十分お気を付け頂いた上で、来年の東京大会でお目にかかれたらと思います。